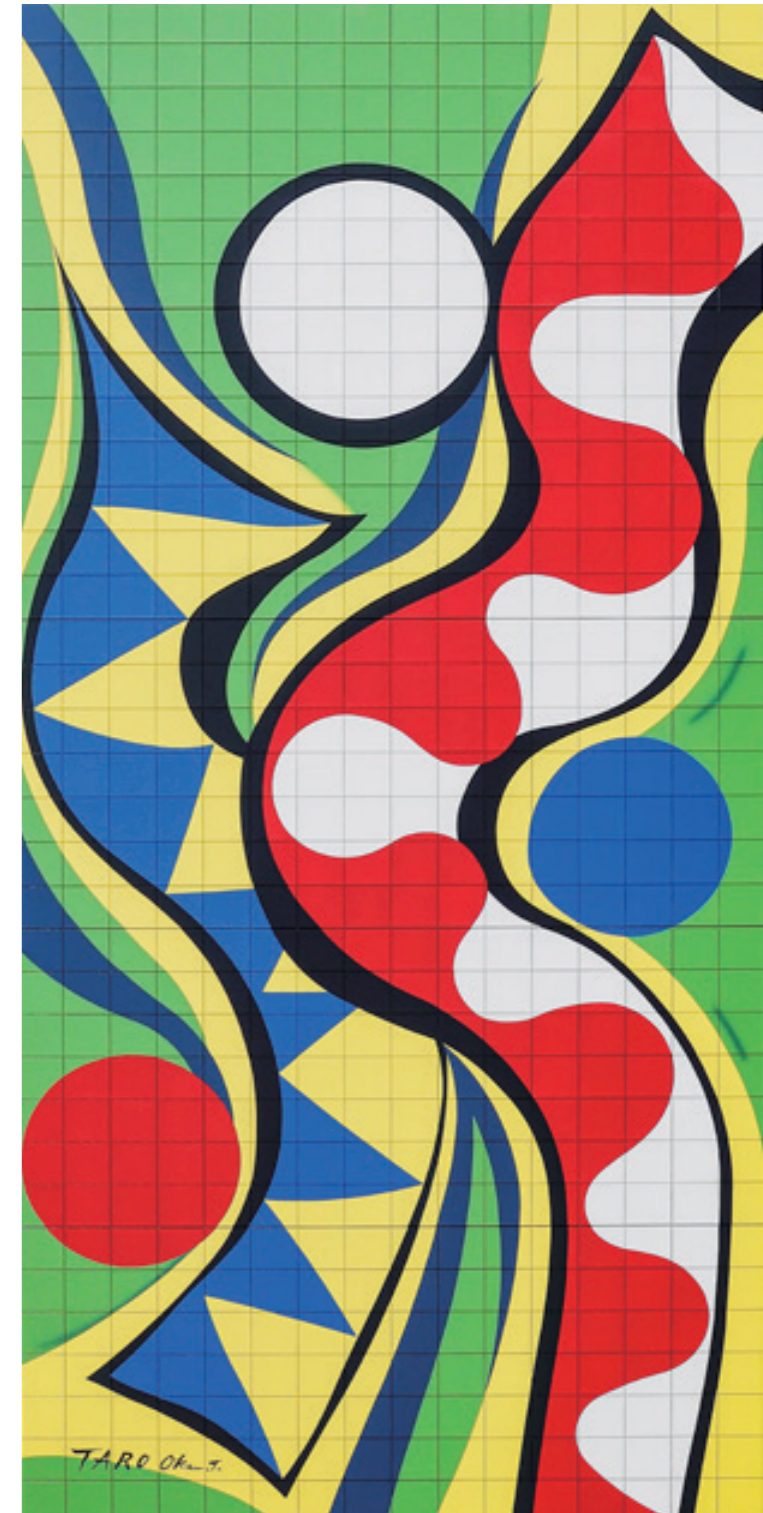





**Otsuka -
people
creating
new
products
for
better
health
worldwide**



「いのち躍る」

 Otsuka
Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.
COMPANY PROFILE

INDEX

- P.04 企業理念
- P.05 トップメッセージ
- P.06 沿革・会社概要
- P.08 グローバル展開
- P.10 事業体制
- P.12 Otsuka synergy 大塚だからできること
- P.14 医療関連事業
- P.18 ニュートラシューティカルズ関連事業
- P.22 サステナビリティの取り組み
(疾患・健康啓発活動／環境／社員)
- P.30 大塚グループのサステナビリティ
- P.32 製品ラインアップ
- P.36 大塚製薬のこれまでの歩み
- P.38 参考情報
- P.40 大塚グループ情報



COVER

表紙の絵画は岡本太郎画伯作。
大塚オーミ陶業の陶板に焼きつけた作品が
大塚製薬の施設の壁画として現存している。
動脈と静脈、また徳島の伝統文化・阿波おどりを
踊っているように見える。
作品名「いのち躍る」は瀬戸内寂聴師が命名。

問い続ける。
すべての人の生命(いのち)に
寄り添うために。

私たちは、問い続けます。
それぞれが考える、幸せな人生とは、健やかな人生とは。
そして、それを支えるために、何が必要とされているのかを。

私たちは、創造します。
社会・地域の課題や生活者の声に、目を向け、耳を傾けて。
日々の健康維持から予防、診断、治療、予後まで、
大塚製薬だからこそできる、これまでにない製品やサービス、新しい価値を。

私たちは、こたえます。
なぜ、その製品やサービスが生み出されたのか。
どのようにして、人々の暮らしを、健康をサポートするのか。

大塚製薬は、
真のトータルヘルスケアカンパニーとしてチャレンジし続け、
ひとりひとりの生命(いのち)に
寄り添い続ける企業でありたいと考えています。

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

二つの事業で培ってきた経験を強みに、 独自のヘルスケアサービスを。

今、世の中は、大きな変化の時代を迎えています。
ヘルスケアの領域においても例外ではなく、医療やデジタルテクノロジーの進化、健康寿命の延伸などを背景に、そのあり方は今後ますます変化していくでしょう。これまでの医療は、医療機関における診断・治療が中心でしたが、これからは予防や治療後のケアの重要性がより一層増し、日々の生活における健康課題への関心やニーズの高まりが予測されます。これまでも徐々に進みつつあった変化ですが、新型コロナウイルス感染症を機に大きく進展しました。

大塚製薬は設立以来、病気の診断・治療にアプローチする医療関連事業と日々の健康維持・増進をサポートするニュートラシューティカルズ関連事業を中心として、世界の人々の健康に向き合ってまいりました。未来においては、医療が多角化し、日常生活から診断・治療までの健康課題に対してシームレスなサポートが求められます。私たちは二つの事業で培ってきた経験を強みとし、時代の変化にそのあり方を適合させ、さまざまな立場の方のご協力を得ながら、独自のヘルスケアサービスを提供してまいります。

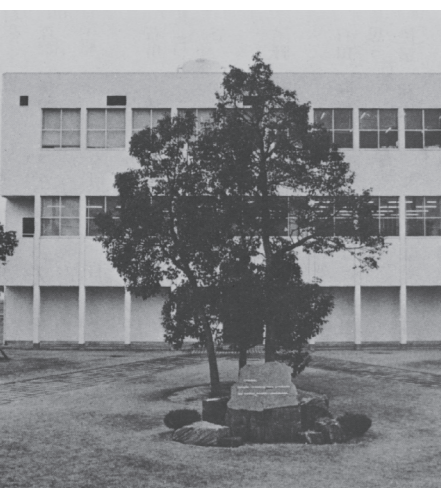
健康は私たちの普遍的な願いであり、終わりのないテーマです。2021年9月に大塚グループは100周年を迎え、次の100年に向けて歩み始めました。これからも「Otsuka-people creating new products for better health worldwide」の企業理念のもと、世界の仲間たちと共に、人々の抱える健康課題に寄り添い、心と身体の健康に役立つという姿勢を大切に、真のトータルヘルスケア企業として進化し続けます。



大塚製薬株式会社 代表取締役社長

井 上 真

History 沿革



企業理念が刻まれた石碑

大塚製薬は、大塚グループの発祥企業である大塚製薬工場の販売部門・外国部門を分離し、点滴注射剤やオロナミンCドリンクなどを販売する会社として1964年に設立されました。その後、1970年に初の自社工場となる徳島工場の操業開始。1971年には治療薬の研究所を開設し、自社創薬に向けて歩み始めました。

大塚の企業文化

Otsuka-people creating new products for better health worldwide—この企業理念は、1973年に工場研究所理念として制定され、のちに大塚グループの企業理念となりました。

大塚製薬の研究者は、当初から世界の人々の健康に貢献するという高い目標を掲げて研究に取り組み、現実を直視して大胆な仮説を立てる「創造性」と、熱意をもって行動し続けて証明する「流汗悟道」、「実証」を胸に果敢に挑み、1980年に高血圧の治療薬を自社で創製するに至りました。この

「流汗悟道」、「実証」、「創造性」は、大塚の企業文化として今も深く根付いています。

グローバル展開

海外進出は1973年、タイから始まりました。当時、オイルショックによるアジア各国での外国製品の輸入制限を経験し、海外での現地生産の必要性を実感。タイでの法人設立以降もインドネシア、台湾、中国、韓国、パキスタンに生産、販売体制を確立しました。アジア地域で展開する一方で、1982年にドイツ、1985年に米国に研究所を設立するなど研究開発の国際化にも注力し、創造性に満ちた製品の創出につなげてきました。

現在、大塚製薬の関係会社は世界中に広がり、健康に貢献する製品の研究開発から、現地生産による供給ならびに周辺諸国への輸出、そして各地における販売活動において、各社社員による各地の文化や環境に応じた創造的なチャレンジが行われています。

Company Profile

会社概要

2022年12月末現在



会社紹介映像

会社名	大塚製薬株式会社
設立年月日	1964年8月10日
資本金	200億円
事業内容	医薬品・臨床検査・医療機器・食料品・化粧品 化粧品の製造、製造販売、販売、輸出ならびに輸入
事業所	支店：15／出張所：49
研究部門	4カ所
工場	8カ所
業績（2022年度単体）	売上高：5,970億円 [医療関連事業：76.6%・ニュートラシューティカルズ関連事業：23.4%] 営業利益：1,394億円
本社所在地	〒101-8535 東京都千代田区神田司町2-9
代表取締役社長	井上 眞
従業員数	5,761名

Philosophy 理念の具現化



巨大なトマトの木

徳島にある能力開発研究所には、大塚製薬のDNA「実証と創造性」を具現化した3つのモニュメントが展示されています。先入観を打ち破り、発想を転換する大切さとともに、創造性の溢れる会社であり続けようというメッセージが込められています。

先入観の執拗さに気が付いても、先入観を打ち破り、発想を転換する大切さとともに、創造性の溢れる会社であり続けようというメッセージが込められています。



曲がった巨大杉

多目的ホール（ヴェガホール）入口に立つ、不安定ながらもバランスを保つ曲がった大きな杉。曲がらないはずの杉の巨木が曲がり、安定しないはずの2本の木が一点で止まり安定している光景は、既成概念の打破や発想の転換を常に語りかけてくれます。



水に浮かぶ石

浮かぶはずのない大きな重たい石が水に浮かぶ石庭。丸く曲線を描く石は、人間に対する愛や人々の健康を願う大塚製薬の精神を表しています。見る人の心を捉え、豊かにし、もの考える力を与えるこの庭は、私たちに新たな発想を促してくれます。

取締役および監査役

(2023年3月8日現在)

代表取締役会長	樋口 達夫
代表取締役社長	井上 眞
代表取締役副社長	松尾 嘉朗
取締役副会長	玉井 進
常務取締役 新興国担当(兼) OIAA [※] 事業部長	坂東 幹夫
常務取締役 事業戦略担当	高木 修一
取締役 研究部門(兼) 知的財産担当(兼) 大阪創薬研究センター長	周藤 俊樹
取締役 OIAA事業部生産担当	平良 伸一
取締役 品質本部(兼) 信頼性保証本部担当	兼子 明美
取締役 生産本部長(兼) サプライチェーン本部(兼) CMC本部担当	谷口 匡
取締役 財務担当	牧野 祐子
取締役	大塚 一郎
常勤監査役	河野 信雄
常勤監査役	稲垣 和也
常勤監査役	鈴木 威生
監査役	菅原 洋

※OIAA：大塚インターナショナルアジアアラブ

Global-expansion

グローバル展開

健康への願いは、万国共通。

世界各地の社員とともに、世界の人々のために。

Otsuka Pharmaceutical

大塚製薬
日本の主な研究・生産拠点

基礎研究部門

- ・徳島創薬研究センター（徳島）
- ・大阪創薬研究センター（大阪）
- ・CMC本部（徳島）
- ・診断事業部研究部（徳島）

臨床開発部門

- ・診断事業部開発部（東京）
- ・新薬開発本部（大阪）

ニュートラシューティカルズ関連事業

- ・大塚栄養製品研究所（滋賀）
- ・大塚スキンケア研究所（滋賀）
- ・佐賀栄養製品研究所（佐賀）

生産拠点

- ・徳島工場
- ・徳島第二工場
- ・徳島ワジキ工場
- ・徳島板野工場
- ・佐賀工場
- ・高崎工場
- ・袋井工場
- ・徳島美馬工場

Japan

日本の関係会社

- アース製薬株式会社
- アース環境サービス株式会社
- はーとふる川内株式会社
- 株式会社北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所
- ネオス株式会社
- 日本理化学工業株式会社
- 大塚デジタルヘルス株式会社
- 大塚電子株式会社
- 大塚メカトロニクス株式会社
- 大塚ウエルネスベンディング株式会社
- 徳島ヴォルティス株式会社

Asia, Arab, Oceania

アジア・アラブ・オセアニアの関係会社

- 大塚オーストラリア製薬 Pty Ltd.
- 中国大塚製薬有限公司
- 広東大塚製薬有限公司
- 大塚製薬開発（北京）有限公司
- 大塚（中国）投資有限公司
- 大塚（上海）薬物研究開発有限公司
- 大塚慎昌（広東）飲料有限公司
- ファーマバイト（上海）健康科技有限公司
- 四川大塚製薬有限公司
- 天津大塚飲料有限公司
- 浙江大塚製薬有限公司
- 香港大塚製薬有限公司
- 金車大塚股份有限公司
- 台湾大塚製薬股份有限公司
- PTアメルタインダ大塚
- PT大塚ディストリビューションインドネシア
- PT大塚インドネシア
- 大塚製薬（マレーシア）株式会社
- 大塚ミャンマー株式会社
- 大塚パキスタン Ltd.
- 大塚（フィリピン）製薬 Inc.
- 大塚ソーラーフィリピン Inc.
- 大塚製薬（シンガポール）株式会社
- 東亜大塚株式会社
- 韓国大塚製薬株式会社
- 韓国大塚電子株式会社
- 大塚ニュートラシューティカル（タイランド）株式会社
- タイ大塚製薬株式会社
- アブディイブラヒム 大塚製薬株式会社
- 大塚タン ニュートリション

North America

北米の関係会社

- ダイヤフーズ Inc.
- 大塚カナダファーマシューティカル Inc.
- A&P Inphatec
- アステックスファーマシューティカルズ Inc.
- アバニアファーマシューティカルズ Inc.
- ケンブリッジアイソトープラボラトリーズ Inc.
- CGロクサーヌ LLC
- クリスタルガイザーブランドホールディングス LLC
- クリスタルガイザーウォーターカンパニー
- フーズステイト Inc.
- マクウェイド センター フォー ストラテジック
リサーチ アンド ディベロップメント LLC
- 大塚アメリカ Inc.
- 大塚アメリカファーマシューティカル Inc.
- 大塚ニュートラシューティカル エマージング
ベンチャー LLC
- 大塚ファーマシューティカル D&C Inc.
- ファーマバイト LLC
- リッジヴィンヤーズ Inc.
- ユコラ Inc.
- ビステラ Inc.

Central and South America

中南米の関係会社

- 大塚ニュートラシューティカルメキシコ株式会社

Europe

欧州の関係会社

- インターファーマブラハ a.s.
- アルマ S.A.
- ナルドベル SAS
- ニュートリション エ サンテ SAS
- 大塚ファーマシューティカルフランス SAS
- 大塚ノーベルプロダクツ GmbH
- 大塚ファーマシューティカル D&C ヨーロッパ GmbH
- 大塚ファーマ GmbH
- 大塚ファーマシューティカルイタリア S.r.l.
- 大塚ファーマシューティカルオランダ BV
- 大塚ファーマシューティカル S.A.
- 大塚ファーマスキャンジナビア AB
- 大塚ファーマシューティカル（スイス） GmbH
- アステックスセラビューティクス Ltd.
- 大塚ファーマシューティカルヨーロッパ Ltd.
- 大塚ファーマシューティカル（U.K.） Ltd.

病気を治すこと。健康を守ること。

事業の垣根を越えて、ひとりひとりの心と身体に、

寄り添いながら応えていく。

医療関連事業

Pharmaceuticals

1971年の研究所開設以来、変わらない創薬の原点は「ものまねをせず、世界に通じるものを創る」という想い。世界中のさまざまな立場の患者さんにとって役立つ新薬をつくるために、中枢神経／腎・循環器／がん／感染症／眼科／皮膚科を重点領域とし、顕在化しながらも満たされていない医療ニーズに焦点をあて、独自のアプローチで画期的な製品づくりに取り組んでいます。新たな治療価値を創造し、革新的な新薬を開発することで世界の人々に貢献しています。

ニュートラシューティカルズ関連事業

Nutraceuticals

ニュートラシューティカルズ (Nutraceuticals) とは、栄養を意味するニュートリション (Nutrition) と医薬品を意味するファーマシューティカルズ (Pharmaceuticals) を組み合わせた言葉。日常生活における人々の健康の維持・増進のため、医療関連事業の研究で培われたノウハウを活かし、科学的根拠に基づいた独創的な製品の開発、情報提供を行っています。時代に応じた健康課題、生活者の潜在的なニーズを掘り起こし、今までにない新しい市場を創り出しています。

Otsuka synergy

大塚だからできること



医療とニュートラシューティカルズ一体で、
社会や地域とともに、
人々の健康課題に取り組む。

Synergy.1

自治体と連携し、スポーツにおける
高校生のメンタルをサポート。

千葉県船橋市との健康づくりに関する包括連携協定では「市民の健康づくり」「食育の推進」「スポーツの振興」「災害時における健康・医療」「市職員の健康増進」「こころの健康づくり」の6項目で連携・協力しています。コロナ禍において部活動に制限が生じ多くの大会が延期・中止になる中、生徒のメンタルヘルスが懸念されています。大塚製薬はスポーツ強豪校の市立船橋高等学校とスポーツメンタルを専門とする精神科医を繋ぎ、学校・医師・当社の三者間で今後の支援について話し合い、メンタルヘルスに不安のある生徒へのカウンセリングなど、具体的な支援へと結びつけました。この取り組みをきっかけに、学校と精神科医が生徒対象のセミナー「スポーツにおけるストレス・マネジメント」を開催するなど、独自の取り組みも始まっています。その他、部活動で熱中症の影響でメンタルの不調を訴えるケースには、医師の要望を受けて、熱中症対策の最新情報として深部体温冷却に関する情報提供を行いました。



メンタルヘルス支援の説明を聞く生徒

Synergy.2

心と身体の健康に寄り添う
バーチャルランを開催。

ワールドメンタルヘルスデーに合わせて、2021年10月1日から11月14日、シンガポールのメンタルヘルス啓発NPO「シルバリーボン」と連携したチャリティイベントPOCARI SWEAT RUNを実施しました。このランイベントはスマホアプリを用いたバーチャルレースで、参加者は思い思いの場所を走り、走行距離に応じた金額をNPOに寄付する仕組みです。大会には、日本やインドネシアの大塚グループ社員も参加、約4,000名が走りました。また、レースに先立ち、精神科医やアスリートによるメンタルヘルスに関するオンラインセミナーを実施しました。“メンタルウェルビーイング、運動、水分補給”など二つの事業を活かした、生活者の心と身体の健康に寄り添う取り組みとなりました。



Synergy.3

「知って対処する」ことの重要性を
メディアを通じ広く発信。

大塚製薬では、3月の「女性の健康週間」（厚生労働省）にあわせて、女性の健康に関する社会のリテラシー向上を目的に、新聞、TV、WEBなどのメディアを対象にセミナーを実施しています。2021年は、専門医による「毛髪の悩みと大豆由来のエクオールとの関係」をテーマとした講演や、「女性のアルコールとの付き合い方」についての情報提供を行いました。2022年は、「月経前症候群（PMS）と女性に多い片頭痛」の講演を行いました。大塚製薬では、医療関連とニュートラシューティカルズ関連、二つの事業の観点から、女性の健康に関するさまざまな情報提供活動を展開しています。今後も、各事業で蓄積されたノウハウを活かし、取り組みを継続することで女性が活躍できる環境づくりを支援していきます。



女性の健康プレスセミナー

心身ともに健やかな日常を。
創薬を、より広く、世界中の人々へ。

Pharmaceuticals

医療関連事業

中枢神経領域

精神・神経疾患でつらい思いをしている、患者さんの社会生活をサポートしたい。

統合失調症や双極性障害、大うつ病、自閉スペクトラム症などの精神疾患は小児期から壮年期に発症することが多く、患者さんの社会生活に大きな支障をきたします。また、さらなる高齢化社会を迎え、認知症の増加は社会課題とされています。中枢神経領域は、疾患の原因が未解明で治療薬の研究開発が困難といわれるなか、大塚製薬は当領域を重点領域とし、自社での創薬に加え、外部との提携による新たなイノベーションの創出、デジタル技術を用いた治療アプリやサポートツールの開発など包括的に取り組み、中枢神経領域における世界のトッププレイヤーを目指します。



エビリファイ／エビリファイ メンテナ／レキサルティを世界の患者さんへ。

大塚製薬は2002年に自社創薬である抗精神病薬「エビリファイ」を米国で発売し、60以上の国・地域で展開してきました。患者さんの服薬中断による再発という課題を捉え、月1回の注射で効果が持続する「エビリファイ メンテナ」を開発。2013年に米国発売、日本では2015年に「統合失調症」、2020年に「双極Ⅰ型障害における気分エピソードの再発・再燃抑制」の適応を取得し、世界約50カ国・地域にて展開しています。

新たな薬理作用をもつ抗精神病薬「レキサルティ」は、2015年に米国で「成人の大うつ病補助療法」、「成人の統合失調症」の二つの効能で、2018年には日本で「統合失調症」の効能で承認されました。他に、アルツハイマー型認知症に伴う行動障害や心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の適応などについても臨床開発を進めています。

片頭痛患者さんの悩みに応える、アジョビ。

片頭痛は神経疾患の中で最も日常生活への負担が大きい疾患の一つと言われています。日本国内に約840万人の患者さんがいるといわれ、30代女性の有病率が最も高く、約20%に達します。大塚製薬は日本において2021年8月にテバファーマスーティカル・インダストリー社より導入した片頭痛発作の発症を抑制する薬剤「アジョビ」を発売。本剤を通じて片頭痛患者さんの抱える悩みに応えます。



独自の創薬技術とデジタルソリューションで、 医薬品事業にイノベーションを。

腎・循環器領域

独自の創薬技術により難病治療に貢献、ファースト・イン・クラスの製品に挑む。

従来の利尿薬は身体に必要な電解質も排泄されるため、「水だけを出す利尿薬が欲しい」という医師の声から開発されたのが、世界初の経口投与が可能な水利尿薬「サムスカ」です。本剤は、腎臓の難病であるADPKD（常染色体優性多発性嚢胞腎）の唯一の治療薬としての可能性も見出され、グローバル製品として腎・循環器領域の患者さんの治療に役立っています。当領域における自社創薬の強化に加え、ノバルティスファーマ社との慢性心不全・高血圧治療薬「エンレスト」のコ・プロモーション、ループス腎炎治療薬「ボクロスボリン」に関する事業提携など積極的な成長投資を進めています。

サムスカ／ジンアークは、
世界40カ国以上の患者さんへ。

「サムスカ」は、ファースト・イン・クラスの薬剤として2009年に欧米、2010年に日本で発売。現在では世界40カ国以上で、心不全や肝硬変による浮腫および低ナトリウム血症の治療薬として患者さんの治療に貢献しています。また、パソプレシンV₂-受容体拮抗作用がADPKDという病気の腎嚢胞形成に関わることが見出され、世界初のADPKD治療薬としても2014年に日本で承認されました。海外では「ジンアーク」という製品名で展開。2018年には米国でも承認を取得し、難病で苦しむ患者さんに日本発の新しい治療を届けることができるようになりました。



独自の抗体プラットフォーム技術を用いた創薬。

2018年に、抗体医薬を設計する独自の抗体プラットフォーム技術を有するピステラ社（米国）が大塚製薬に加わり、従来難しいと考えられていた多くの生体物質に対する抗体医薬品の開発に取り組んでいます。この抗体技術から生み出されたVIS649は、承認された治療薬がないIgA腎症に対する新たな治療手段として開発が進められています。



VRによる患者さん支援サービス

デジタルソリューションによる、 包括的な精神疾患医療の 取り組みへ。

大塚製薬は、重点領域とする精神・神経疾患領域を中心にデジタルソリューションへの取り組みを進めています。医療用アプリケーションの開発に強みを持つクリック セラピューティクス・インク（米国）とのグローバルライセンス契約による、大うつ病性障害のデジタル治療アプリケーションの開発や、高度なVR技術による医療福祉向けサービスを展開するジョリーグッド社（日本）との提携による、VRを用いた統合失調症患者さんの社会復帰を支援するサービス開発など、治療薬の研究開発に加え、デジタル技術への積極的な投資により包括的に精神疾患医療に貢献します。



新しい創薬研究所（大阪）

新規治療法確立への挑戦。

製薬業界では分子生物学、免疫学、発生学を基盤とした新しい創薬技術の応用が進んでいます。従来の低分子医薬品だけでなく、抗体医薬やがん免疫療法など、これまで治療が難しかった病気に対する創薬の手法が増えるモダリティ多様化時代を迎えています。

大塚製薬は、国内外のパートナーと連携し、将来を見据えた新しいモダリティとのシナジーを生み出す新規治療法の確立に挑戦しています。英国アステックス社の独自に進化させたフラグメント創薬技術とクライオ電子顕微鏡の導入、大阪大学などのがんの遺伝子改変T細胞療法（CAR-T）に関する研究開発、理化学研究所とのiPS細胞などを用いたオルガノイド作製技術の共同研究はその一例であり、アカデミア、バイオベンチャーとのネットワーク構築や研究支援などを通じ、自社創薬基盤の強化を進めています。2022年夏に大阪に新設された創薬研究所では、低分子創薬に加えて遺伝子細胞治療、再生医療、抗体医薬をはじめとするバイオロジクス、免疫研究やデジタル技術を駆使した最先端の創薬研究を実施します。

今日よりも輝ける明日を。
社会環境の変化で新たに生じる
健康課題もサポート。

Nutraceuticals

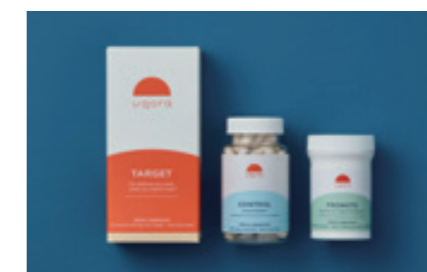
ニュートラシューティカルズ関連事業

女性の健康

女性特有の健康課題に向き合う。

大塚製薬は、女性にとって有用な成分、大豆由来のエクオール含有食品「エクエル」を発売以来、ゆらぎ期®の女性の健康と美を支えてきました。2021年、新たに月経前の心と身体の変化に対応する「トコエル」を発売し、「エルシリーズ」として幅広い年齢層のサポートが可能になりました。

また、医療関連事業と協働で情報提供を行い、トータルヘルスケア企業の強みを活かした女性の健康に関する啓発活動も行っています。「知って対処する」ことの重要性を伝え、ヘルスリテラシー向上、ひいては女性の活躍を応援してまいります。



ユコラ社とのシナジーを活かして、
女性の健康サポート分野を拡大。

2021年、女性に多い悩みとされる泌尿器系の健康分野に特化した製品とプラットフォームに強みを持つ米国「ユコラ社」が大塚の仲間になりました。ユコラは、尿路感染症 (UTI) 分野において、プロアクティブなケア (尿路系の健康を維持するためのサプリメント) と、リアクティブなソリューション (尿路系の症状をコントロールするための製品) を展開し、ユニークなアプローチによってUTIの悩みを抱える人たちの健康課題の解決をサポートし、2017年の設立以来、急成長しています。

米国ファーマバイト社と互いの強みを活かしながら、大塚製薬として女性の健康分野をより広くサポートします。

正しい情報を伝える、
各種セミナーやプログラムの提供。

医薬専門家の協力のもと企業、自治体、医療関係、報道関係など対象を様々に、「女性の健康」をテーマとしたセミナーを開催し、正しい情報提供や啓発活動に努めています。また、地域の健康に携わる薬剤師などを対象とした「ヘルシーエイジングサポーター養成プログラム (OATHAS: オーザス)」をNPO法人HAPとともに共催。女性特有の健康課題やサポートについて学びたい、カウンセリング技術を身に付けたい、健康サポート薬局を目指したい方などを対象にプログラムを提供しています。



女性の健康推進プロジェクト



Nutraceuticals

ニュートラシューティカルズ関連事業

日常生活における、さまざまな健康課題に、
科学的根拠のある製品と情報で、応えていく。

体調管理

科学的根拠に裏付けられた製品と情報で、
体調管理を日々のあたりまえに。

社会環境が大きく変化中、感染症対策としての体調管理の重要性の再認識や活動自粛による運動機会の減少などを背景に、自身の健康に対する意識が高まっています。大塚製薬は、新しい生活様式において生じる健康課題の解決のため、独自の提案を行っています。例えば、植物由来の乳酸菌ONRICb0240の研究データをベースに、粘膜免疫や体調管理のための情報を提供。糖電解質補給飲料の研究で得られた知見により、ウイルスや異物の排出を担う線毛輸送機能の維持と水分・電解質補給の関係の解説や、自粛生活によって暑さに慣れないまま夏を迎えることのリスクの周知などに取り組んでいます。また、新しい生活様式の中で、栄養バランスや健康的な間食の重要性が見直され、製品の価値が再評価されています。米国での発売から50年を迎えた「ネイチャーメイド」は、不足しがちな栄養成分の補給というこれまでの役割に加え、より積極的な健康対策として、ビタミンDやビタミンCが注目され、需要が高まっています。米国サプリメント店頭シェアNo.1*1、米国薬剤師が推奨するNo.1サプリメントに24年連続で選出される*2など、信頼のブランドとして生活者の健康をサポートしています。

*1 全米全小売店合算における2023年1月1日までの52週間、サプリメントビタミンカテゴリー対象、©2023, Information Resources Inc. スキャントラックサービスを使用した収集データに基づく
*2 2022 U.S. NEWS & World Report (in collaboration with Pharmacy Times) Survey: 対象商品レタービタミン(A, B, C, D, E, K)、コエンザイムQ10、オメガ3/フィッシュオイル、フラックスシードオイル、ハーブ、ムードヘルス(Clam & Relax)、糖尿病用マルチビタミン、コレステロールマネジメンターフィッシュオイル、スリープアイド(メラトニン/メラトニンプレンド)



プラントベース食品

エシカル消費とともに注目が高まる、
プラントベース (植物由来) 食品。

エシカル消費が注目される中、健康食志向、ライフスタイルの変化など、消費者の製品選択の変化に対応する、さまざまなプラントベース食品を扱っています。北米でプラントベース食品の開発・製造・販売を行うデイヤフーズ社は、植物由来の原料から作られるチーズ代替品、ドレッシング、デザートなど乳代替製品を販売。ヴィーガン、フレキシタリアンや食物アレルギーを持つ方のみならず、ミレニアル世代を中心とする新しい価値観をもつ層にも支持され、成長しています。欧州で栄養製品を販売するニュートリション エ サンテ社のCéréal bioは、フランスにおけるオーガニック食品の歴史あるブランドです。現在、主に "Ready to Eat" または "Ready to Cook" の食品を中心に、多くの製品を展開しています。また、日本では大豆バー「SOYJOY」から「プラントベース シリーズ」が登場。注目のヴィーガン認証*3も取得しています。

*3 NPO法人ベジプロジェクトジャパンが定めるヴィーガン認証



1980年発売

ポカリスエット

輸液事業のノウハウを活かし、
誕生した健康飲料。

大塚グループは、1921年に化学原料メーカーとして創業し、1946年から輸液事業を開始。輸液事業で培われたノウハウを活かし、生命の維持に欠かせない大切な水分・電解質を補給する飲料として開発されたのが1980年発売の「ポカリスエット」です。さまざまな研究で得られた科学的根拠を基に、アクティブに活動するシーンはもとより、熱中症予防の啓発活動など、日常生活における水分・電解質補給の重要性を国内外で伝え続けてきました。ドリンク、ゼリー、粉末に加えて、深部体温に着目したアイススラリーもラインアップとして揃い、豊富なバリエーションによって社会環境の変化により生じる新たな健康課題にも目を向け、解決策の提案を続けています。



1965年発売

オロナミンCドリンク

世代を超えて元気を届ける、
炭酸栄養ドリンク。

医薬用のドリンク剤が大きな市場を確立した時代。味にもこだわり、栄養ドリンクに「炭酸」を加えるという斬新な発想から、誰にでも飲めるおいしい炭酸栄養ドリンク「オロナミンC」は生まれました。当時からデザインや成分は変えない一方で、容器の仕様は安全性や環境に配慮しながら改良を重ねてきました。「元気ハツラツ!」というキャッチコピーとともに幅広い世代に愛される存在となり、世界の人々に元気を届けています。



1983年発売

カロリーメイト

5大栄養素を手軽に摂れる
「バランス栄養食」。

「食事ができないために退院できない人がいる」。医療分野で、点滴に代わる臨床栄養食として開発された濃厚流動食「ハイネックス-R」をルーツに、健康な人の栄養補給として誕生したのが「カロリーメイト リキッド」です。また、「朝食欠食」という社会問題を背景に「いつでもどこでも誰にでも食べられる朝食」として、「カロリーメイト ブロック」は誕生しました。現在は、ブロック、リキッド、ゼリータイプを展開。朝食だけでなく、運動や勉強中の栄養補給、さらには災害備蓄など、幅広い場面で5大栄養素が手軽に摂れるバランス栄養食として人々の食生活をサポートしています。



製品開発ストーリー



科学的根拠に基づいた、正しい情報の伝達を。

大塚の疾患・健康啓発活動。



Sustainability

サステナビリティ (疾患・健康啓発活動)

培ってきた資産を活かして、
病気・健康に関する正しい情報を。

大塚製薬は、製品の研究・開発、患者さんや生活者の方たちとのコミュニケーションの中で得られた資産を活かして、病気や健康に関する正しい情報を伝える活動を粘り強く行っています。例えば、身近で気になる健康や病気の分野について、もっと知りたいの思いから「健康と病気」というWEBコンテンツを制作。それぞれの悩み、テーマに応じた情報や対策などをわかりやすく紹介しています。



大塚製薬WEBサイト「健康と病気」

健康と病気



OTSUKA まんがヘルシー文庫 WEBサイト

創刊から30年余。WEBも充実、
OTSUKA まんがヘルシー文庫。

子どもたちの健康を願い、身体のしくみ、健康への関心や理解を深めるまんがを、様々なテーマで毎年発刊し、全国の小、中学校、海外日本人学校などに寄贈しています。1989年の創刊から30年を越える活動となりました。WEBサイトでは、電子ブックで読みたいまんがを閲覧できるほか、おすすめや検索機能で新たなまんがにも出会えるよう工夫しています。文庫に掲載する児童作品の募集や小学校学習指導要領対照表を展開するなど、教育現場での活用も提案しています。

OTSUKA まんがヘルシー文庫



栄養の大切さを伝える食育活動。

栄養補助食品の製品開発で培ったノウハウをもとに、栄養について学ぶ食育活動を続けています。子どもたちが正しい食生活や栄養の知識を身につけづらい環境にあるという課題に着目した食育アプリや、忙しい現代人向けの栄養分析ができるサービスなどを通じて、全世代に向けて栄養の大切さを伝えています。食育アプリは小学校の教育現場でも活用され、自治体などとも連携しながら活用の場を広げています。



サプリメントチェック

サプリメント
チェック



食育
アプリ



Sustainability

サステナビリティ (疾患・健康啓発活動)

病気や健康、その病態や対処の方法について伝える、粘り強い啓発活動。



女性活躍を健康面からサポートする活動。

女性活躍が推進される中、重要な課題とされる「女性の健康」。月経前症候群 (PMS)、更年期症状、片頭痛など、女性特有のライフステージに応じた健康課題に応えるために、医療関連事業とニュートラシューティカルズ関連事業の両事業の強みを活かし、活動しています。症状を我慢するのではなく、「知って対処する」ことの重要性を伝えるヘルスリテラシー向上のための活動を通して、女性活躍を応援しています。



水分・電解質補給の重要性を伝える熱中症対策啓発活動。

ポカリスエット発売当初からさまざまなシーンにおける「水分補給の重要性」の訴求を行ってきました。「スポーツ活動における熱中症事故対策に関する研究班」(現:日本スポーツ協会)の設置を機に、1992年から熱中症を知って防ぐ活動への協力がスタート。現在に至るまで、夏の熱中症対策、スポーツシーンのみならず、職場での労働安全衛生、入浴、高齢者の水分補給など幅広いテーマで、科学的根拠に基づいた情報提供を続けています。

アルコールに関する正しい理解の浸透と当事者を医療につなげる活動。

アルコール依存症は、多量な飲酒を繰り返すことで飲酒したいという欲求が強くなり、飲酒行動をコントロールすることが難しくなる疾患です。健康や仕事、家庭生活に重大な支障をきたすことで、社会的・経済的な影響が大きいとされています。また、アルコール依存症でありながら、受診につながらない「治療ギャップ」が大きいことも課題です。大塚製薬は、専門医や学会の協力のもと、アルコール依存症の診断・治療に関する講習会を実施し、最新のアルコール依存症治療の啓発・周知を通じて患者さんの状態に応じた適切な治療が行われるよう、医療につなげる活動をしています。

リスクの少ない飲酒量は？			
1日の飲酒の量は、純アルコール20g			
それぞれの量に当てはめると、			
ビール 500ml 約15%アルコール含有率	ストロング系 酎ハイ 350ml 約15%アルコール含有率	ノンアルコールビール 500ml 約0%アルコール含有率	焼酎 180ml 約15%アルコール含有率
ウイスキー 60ml 約40%アルコール含有率	ワイン 200ml 約12%アルコール含有率	日本酒 180ml 約15%アルコール含有率	焼酎 110ml 約15%アルコール含有率



多発性嚢胞腎への理解を促進する、まんがが活用。

常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) は指定難病の一つで最も頻度の高い遺伝性腎疾患であり、どのような疾患かほとんど知られていないのが現状です。大塚製薬では本疾患の啓発活動において、厚労省研究班の多発性嚢胞腎ワーキンググループが制作した、患者さんの日々の生活のヒントを交えた疾患を簡単に理解できるまんがコンテンツを活用。これまで約30万部を発行・配布することで本疾患への理解を深める活動を支援しています。

世界の結核撲滅に向けて、公衆衛生改善への貢献を。

エイズ、マラリアと並ぶ世界三大感染症のひとつとされた「結核」は、2016年から始まった持続可能な開発目標 (SDGs) で、2030年までにその流行の終息を目指すことが宣言されました。大塚製薬では、研究開発に40年以上かけ、2014年に世界で約40年ぶりの新薬となる多剤耐性肺結核治療薬「デルティバ」を創製。現在では、国際機関や各国政府、民間企業、各種財団などと連携し、患者さんの多い途上国への普及活動を続け、今では世界120カ国以上で使用されています。さらに次の新薬 (OPC-167832) の開発にも取り組み、結核の撲滅、ひいては世界の公衆衛生改善への貢献を目指しています。



脱炭素社会の実現、
サステナブルな社会を目指して、
大塚としてできることを。

Sustainability

サステナビリティ (環境)

持続可能な社会を目指して、
中・長期的な環境ビジョンを。

大塚グループは、事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにするという2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を新たに掲げました。本ビジョンに基づき、マテリアリティ(重要項目)を【カーボンニュートラル】【サーキュラーエコノミー】【ウォーターニュートラル】と特定し、中期目標を設定。また、事業戦略の一環として環境方針(詳細P38)に則り、グループ協働で取り組んでいます。2020年には「大塚グループプラスチックステートメント」(詳細P38)を制定。植物由来のバイオプラスチックやリサイクルペット素材を利用したペットボトルや代替素材の開発を進めており、2050年には消費者商品の全製品において持続可能な社会に対応した容器包装を目指してグループ協働で取り組んでいます。

新しい時代の農業へのチャレンジを。

MegaFood(米国フードステイト社)は、Soil Carbon Initiative*1の共同創設者として、農家と提携し、農家の経済的実行可能性を改善しながら、気候変動を緩和する手段として土壌の健康を回復することを目指しています。また、欧州のニュートリション エ サンテ社は、2019年には農家の土壌保全農業への移行を支援する「Objective Earth」プログラムを、25のCRC**2小麦農家との協力のもとでスタートさせ、「不耕作栽培、より多くの輪作、植物被覆」などの実践を推進しています。

米国、日本で取り組む、環境配慮型
容器包装。

大塚製菓の米国関連会社のCGロクサーヌは、2019年に米国の飲料メーカーとして初めて、自社の再生プラスチック工場(カリフォルニア州)の操業を開始。使用済ペットボトルからPET樹脂を再生し、リサイクルペットボトルを完成させています。日本では2021年、ポカリスエットのラベルレスペットボトル製品の販売を開始。2022年より、再生PET素材を利用したペットボトル製品の製造・販売を開始しました。



ラベルレス ペットボトル



大塚エコビレッジ/堆肥用コンポスト穴づくり

資源循環の取組み
「大塚エコビレッジ」。

インドネシアでは、ごみ箱にごみを捨てる習慣が根付いてなく、廃棄物の処理・管理の構築が十分でないことから、海洋汚染などの社会問題を引き起こしています。そこで、インドネシアのアメルタインダ大塚では地域住民と協力し、ごみを適切に処理し、資源を循環できるように、初期啓発や廃棄物を自主管理できる社会づくり推進プログラム「大塚エコビレッジ」を生産工場の隣村でスタートしました。今後、近隣村への啓発活動の拡大の支援や他の工場周辺でも行う予定です。

*1 Soil Carbon Initiative(土壌炭素イニシアチブ):土壌の健全性、生物多様性、炭素貯蔵と耐久性、水質、気候回復力、農業経済の改善など、再生可能な成果を最大化するために、農家と食品サプライチェーンが再生農業管理下の土地面積の移行を拡大する権限を与え奨励する、コミットメントと検証のプログラム。https://www.soilcarboninitiative.org/about

*2 Culture Raisonnée Contrôlée 持続可能な方法で栽培された100%フランス産の穀物を保証する機関

多様な社員の活躍こそが、
新たな価値創造、
会社の成長へとつながります。

Sustainability

サステナビリティ (社員)

社員の健康や社員間の
コミュニケーションの促進を。

大塚製薬は健康宣言に基づき、社員とその家族の健康維持増進のための環境を整備しています。トレーニングやストレッチ動画のオンライン公開や、スマホアプリを用いたウォークラリーやバーチャルランを実施。各自の日常での運動継続や社員間コミュニケーション促進にも活用しています。また、人間ドックの受診助成、無料健康相談、事業で得られたノウハウを活かした健康教室の開催など、様々な形で健康経営を推進しています。

社員の健康



- ・「健康経営優良法人～ホワイト500～」7年連続認定
- ・「東京都スポーツ推進企業」8年連続認定
- ・「スポーツエールカンパニー」6年連続認定、連続認定企業「ブロンズ」



“一人一人の異なる強み”を活かし、
いきいきと働くことができる環境を。

企業成長の原動力となる革新的な製品やアイデアには、多様な人材の活躍が必要と考え、大塚製薬ではダイバーシティを積極的に推進しています。各種制度の充実をはじめ、2021年にはこれまで管理職以上を対象としていた「イクボスセミナー」を全社員に向けて実施。特例子会社「はーとふる川内」は、障がい者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度「もにす認定」の第一号事業主に選ばれました。大塚グループ事業所内保育所「ビーンスターク保育園とくしま」は、独自性の高い保育が好評で現在国内最大規模の定員210名となっています。米国子会社大塚アメリカファーマシューティカル (OAPI) と大塚ファーマシューティカル D&C (OPDC) が2022年、職場文化・社会意識調査の世界機関 (Great Place to Work®) から3年連続「働きがいのある会社」として認定されました。



米国の大塚社員

若手社員を対象とした
「アンコンシャスバイアス研修」。

女性営業職の管理職増加を目的に、アンコンシャスバイアス研修を実施。バイアスを乗り越える方法を学び具体的な行動目標を策定しました。研修後にはバイアスへの理解を深め、仕事やスキルアップへの自信に対する変化を得るとともに意欲や責任感も高まりを見せました。

女性が活躍する環境づくりを目指して、
女性の健康セミナーの実施。

健康経営、女性活躍推進の取り組みとして大塚ホールディングス主催のグループ社員向けに研修「女性の健康セミナー」を行っています。また2022年には、大塚製薬社員向けに「女性の健康とプレゼンティーズム」をテーマにセミナーを開催しました。参加した男女の97%が「大変満足」、「満足」と回答。「プレゼンティーズムに対する理解が深まり、勤務時に意識すると思う」と答えた社員は79%にのぼりました。この他にも、新任課長研修や評価者 (マネージャー向け) 研修等においても「女性の健康」の講義を実施するなどし、誰もが活躍できる環境を目指しています。



Otsuka People Talk 社員が語る

性別も年齢も国籍も超えて、さまざまな個性を発揮する社員たちが仕事への思いを語ります。



企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する 革新的な製品を 創造する

目指す姿

To become an indispensable contributor to people's health worldwide

世界の人々の健康に貢献する、なくてはならない企業

サステナビリティミッション

大塚グループは、企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、自らの持続的な成長と健康でサステナブルな社会の実現を目指します。そのため、最適なガバナンス体制を土台として社会と地球の健康に貢献する各活動目標の達成に取り組みます。

サステナブルな社会の実現に貢献



大塚グループは、事業活動を通じてSDGs目標の達成に貢献します。



SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

大塚グループのマテリアリティ(重要項目)と主に関連するSDGs

マテリアリティ	社会課題	目標	活動	主に関連するSDGs	
社会	健康	<ul style="list-style-type: none"> ● 満たされていない医療・健康ニーズの存在 ● 感染症の蔓延 ● 栄養ニーズの存在 ● 高齢化に伴う課題の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンメット・ニーズ解決への貢献 ● 結核の撲滅 ● 健康なくらしの実現のための仕組み作り ● 健康寿命の延伸 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンメット・ニーズ解決に向けた研究開発促進 ● 抗結核薬の研究開発と薬剤アクセスの向上 ● 運動・栄養等を主テーマとした人々の健康維持・向上の支援、啓発活動 ● パートナーシップ強化による課題解決促進 	
	人材	<ul style="list-style-type: none"> ● プレゼンティーイズム*1 ● 多様化への未対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 創造意欲を喚起する企業風土の醸成 ● 従業員エンゲージメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成 ● ダイバーシティ推進 ● 健康経営 	
	品質	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能性を損なう消費・生産 	<ul style="list-style-type: none"> ● ステークホルダーの信頼の獲得 ● バリューチェーン全ての段階での持続可能性の追求 ● 安心・安全のための品質保証体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な調達と製品設計 ● 徹底した品質管理と安定供給 ● 責任ある販促活動と情報提供 ● ステークホルダーとのコミュニケーションの深化 ● 「消費者志向経営」の推進 	
環境	カーボンニュートラル*2	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2028年目標: CO₂排出量を2017年比50%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ● バリューチェーン全体のCO₂排出量削減 	
	サーキュラーエコノミー*3	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷の増大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2028年目標: 廃棄物の単純焼却と埋立を2019年比50%削減 ● 2030年目標: PETボトルにおけるリサイクル原料および植物由来原料の使用割合 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源効率向上による環境負荷軽減 ● 社会・地球共に持続可能な状態を目指した事業活動の推進 	
	ウォーターニュートラル*4	<ul style="list-style-type: none"> ● 水リスクによる淡水の利用可能量減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2028年目標: 工場の水管理プログラムをグローバル全拠点へ展開 ● 2028年目標: 水ストレス地域の事業拠点に対し、水利用戦略の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水リスクの把握 ● 水資源の管理と有効利用 	
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 脆弱なガバナンス体制 ● 社会変化によって生じるリスク 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期的な企業価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● コーポレート・ガバナンスの強化 ● コンプライアンスの徹底 ● リスク把握、評価、管理 		

*1出社しているにも関わらず、心身の状態の悪さから生産性が上がらない状態、*2 持続可能なエネルギー利用、*3持続可能な原材料利用、*4持続可能な水資源利用



Pharmaceuticals

中枢神経

抗精神病薬
レキサルティ

抗精神病薬
エビリファイ持続性水懸筋注用/
エビリファイメンテナ*
*海外製品名

抗精神病薬
エビリファイ

ドパミン作動性パーキンソン病治療剤
レストレスレグス症候群治療剤
ニュープロパッチ

アルコール依存症 飲酒量低減薬
セリンクロ

ヒト化抗CGRPモノクローナル抗体製剤
アジョビ

情動調節障害治療薬
ニューデクスタ(米国)

腎・循環器、消化器 ほか

V₂-受容体拮抗剤
サムスカ/ジンアーク*
*ADPKD治療薬の海外製品名

V₂-受容体拮抗剤
サムタス
アンジオテンシン受容体ネプリライシン
阻害薬(ARNI)
エンレスト*1

抗血小板剤
プレタール

徐放性 高血圧治療剤
ミケランLA

βブロッカー
ミケラン

高脂血症治療剤
ロレルコ

高脂血症治療剤・心身症
(更年期障害・過敏性腸症候群)治療剤
ハイゼット

胃炎・胃潰瘍治療剤
ムコスタ

カリウムイオン競合型アシッドプロテナー-
プロトンポンプインヒビター
タケキャブ*2
キャブピリン*2

ヘリコバクターピロリ除菌用パック製剤
ポノサブパック*2
ポノピオンパック*2

肝不全用経口栄養剤
アミノレバンEN

レボカルニチン製剤
エルカルチンFF

皮膚科

アトピー性皮膚炎治療剤
モイゼルト

ニューキノロン系外用抗菌剤
アクアチム

角化症治療剤
ウレパール

がん

抗悪性腫瘍剤
チロシンキナーゼインヒビター
アイクルシグ

造血幹細胞移植前治療薬
ブスルフェクス

眼科

ドライアイ治療剤
ムコスタ点眼液

緑内障・高眼圧症治療剤
ミケルナ配合点眼液*3

緑内障・高眼圧症治療剤
ミケランLA点眼液*3
ミケラン点眼液*3

緑内障・高眼圧症治療剤
アイベータ配合点眼液*3
アイラミド配合点眼液*3

ニューキノロン系抗菌点眼剤
オゼックス点眼液*4

診断薬、医療機器 ほか

[消化器]

ヘリコバクター・ピロリ感染診断用剤
ユービット

ヘリコバクター・ピロリ抗体キット
ラビラン H.ピロリ抗体スティック

ヘリコバクター・ピロリ抗体キット
ウリネリザ H.ピロリ抗体

ヘリコバクター・ピロリウレアーゼキット
ヘリコチェック

ヘリコバクター・ピロリ抗原キット
クイックナビ-H.ピロリ*5

[呼吸器・感染症]

肺炎球菌キット
ラビラン肺炎球菌
ラビラン肺炎球菌HS(中耳・副鼻腔炎)

インフルエンザウイルスキット
クイックナビ-Flu2*5

アデノウイルスキット
クイックナビ-アデノ2*5

RSウイルスキット
クイックナビ-RSV2*5

インフルエンザウイルスキット
RSウイルスキット
クイックナビ-Flu+RSV*5

ノロウイルス抗原キット
クイックナビ-ノロ3*5

A群βータ溶血連鎖球菌抗原キット
クイックナビ-StrepA2*5

マイコプラズマ抗原キット
クイックナビ-マイコプラズマ*5

SARSコロナウイルス抗原キット
クイックナビ-COVID19 Ag*5

インフルエンザウイルスキット
SARSコロナウイルス抗原キット
クイックナビ-Flu+COVID19 Ag*5

[がん]

ウイルス腫瘍-1遺伝子(WT1)mRNAキット
WT1 mRNA 測定キットII「オーツカ」

Major bcr-abl mRNAキット
Major BCR-ABL mRNA 測定キット
「オーツカ」

minor BCR-ABL mRNAキット
minor BCR-ABL mRNA測定キット
「オーツカ」

[医療機器 ほか]

赤外分光分析装置
POConePlus

デンシトメトリー分析装置
クイックナビリーダー2*5

クラスII汎用検査用シリーズ 多項目試薬紙キット
ウロペーパーIII*栄研*6



国内における提携状況
*1 ノバルティス ファーマ株式会社と共同販促 *2 武田薬品工業株式会社と共同販促 *3 千寿製薬株式会社と共同販促 *4 富士フイルム富山化学株式会社と販売提携
*5 デンカ株式会社と共同販売 *6 栄研化学株式会社と共同販売

Nutraceuticals

ニュートラシューティカルズ事業製品

- | | | | |
|-------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------------|
| ポカリスエット | カロリーメイト | エネルゲン | 賢者の食卓 ダブルサポート
[特定保健用食品] |
| ポカリスエット イオンウォーター | ネイチャーメイド
[機能性表示食品を含む] | ジョグメイト プロテインゼリー | 賢者の快眠 睡眠リズムサポート
[機能性表示食品] |
| オロナミンCドリンク | ファイブミニ
[特定保健用食品を含む] | ボディメンテ (BODYMAINTÉ) | ザ・カルシウム |
| オロナミンC ROYALPOLIS | | 乳酸菌B240タブレット | |
| | | アミノバリュー
[機能性表示食品を含む] | |



Soylution*

- ソイジョイ (SOYJOY)
- ソイカラ (SoyCarat)

* Soylution: Soy (大豆) + solution (解決)



女性の健康

- エクエル (EQUELLE)
- トコエル (tocoelle)

OTC医薬品

- オロナインH 軟膏
- 新サラリン



健粧品* (Cosmetics)

- インナーシグナル
[医薬部外品を含む]

- サクラエ (sakuraé)
[医薬部外品]

- UL-OS (ウル・オス)
[医薬部外品を含む]

* 健粧品 (Cosmetics): cosmetics (化粧品) + medicine (医薬品)

乳幼児向け製品

- ビーンスターク*
* 雪印ビーンスターク株式会社が販売



Timeline of Otsuka Pharmaceutical's History

大塚製薬のこれまでの歩み

Corporate

コーポレート

1964

大塚製薬株式会社設立

1970

徳島工場操業開始
大塚製薬初の自社工場

1973

工場研究所理念（現在の企業理念）を制定
Otsuka-people creating new products for better health worldwide
世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

1982

病気の治療を図る医薬品事業と健康の維持増進を図る栄養製品事業（後のニュートラシューティカルズ関連事業に相当）の二大事業体制を宣言

1988

グローバル人材開発のための施設
能力開発研究所 完成

1998

世界初の陶板名画美術館
大塚国際美術館設立

2001

OIAA (Otsuka International Asia Arab)
事業部 設立
アジア中近東地区の事業の加速を目的に設立

2004

四国初のJリーグチーム運営会社 徳島ヴォルティス 設立

2007

コーポレートシンボル導入

2008

大塚グループの持株会社
大塚ホールディングス 設立

2010

大塚ホールディングス
東京証券取引所第一部に上場

2011

事業所内保育所「ビーンスターク保育園とくしま」開園
特例子会社 は一とふる川内株式会社 設立

2014

「ダイバーシティ経営企業100選」（経済産業省）
を受賞

2016

国連グローバル・コンパクト（UNGC）へ参加
大塚グループは、UNGCの10の原則に賛同し、署名

2017

「健康経営優良法人-ホワイト500-」
（経済産業省）に認定（2023年まで7年連続）
「スポーツエールカンパニー」（スポーツ庁）に認定
（2022年度まで6年連続）

2020

大塚ホールディングス「なでしこ銘柄」（経済産業省）
に選定（2023年に2度目の選定）

2021

大塚グループ 創業100周年

Pharmaceuticals

医療関連事業

1971

徳島工場第一研究室を設置
自社医薬品研究開発を開始

1973

海外初の法人 タイ大塚製薬 設立
以後アジア各国に事業会社を設立
米国初の拠点である駐在員事務所 開設

1974

大塚インドネシア 設立
台湾大塚製薬 設立
欧州初の拠点である駐在員事務所 開設

1979

「ハイネックス-R」発売

1980

「ミケラン」発売
「メプチン」発売

1981

中国大塚製薬 設立
中国の改革解放後、初の参入

1982

ドイツにフランクフルト臨床研究所設立
欧州における研究開発の拠点としてスタート

1983

徳島にハイゼットタワー完成
医薬品研究開発部門を拡充

1985

米国にメリーランド研究所 設立
米国における研究開発の拠点としてスタート

1988

「プレタール」発売

1989

大塚アメリカ (OAI)、
大塚アメリカファーマシューティカル (OAPI) 設立

1990

「ムコスタ」発売

1998

英国に大塚ファーマシューティカルヨーロッパ
(OPEL) 設立
以後各国にグループ会社を設立

1999

プリストル・マイヤーズ スクイブ社 (BMS社) と
米国をはじめ世界各国における抗精神病薬アリピプラ
ゾールの共同開発・販売の契約を締結

2002

「エビリファイ」米国発売

2006

「エビリファイ」日本発売

2007

米国に大塚ファーマシューティカルD&C (OPDC) 設立
医薬品事業世界展開を企画

2009

「サムスカ」欧州・米国発売

2010

「サムスカ」日本発売

2011

デンマークのルンドベック社と中枢神経領域における
グローバルアライアンス契約を締結

2013

「エビリファイ メンテナ」米国発売
「ニュープロ パッチ」発売
米国のアステックス社に資本参加

2014

「サムスカ」ADPKD治療薬の効能追加
「デルティバ」欧州・日本発売
「ニューデクスタ」米国販売

2015

「レキサルティ」米国発売
「エビリファイ持続性注射剤」日本発売
米国のアバニア社に資本参加

2016

「アイクルシグ」発売

2018

「レキサルティ」日本発売
「JYNARQUE」米国発売

2019

「セリンクロ」日本発売

2021

「アジョビ」日本発売

2022

「サムタス」日本発売
「モイゼルト」日本発売

Nutraceuticals

ニュートラシューティカルズ関連事業

1965

「オロナミンCドリンク」発売

1980

「ボカリスエット」発売

1982

「ボカリスエット」香港・台湾発売

1983

「カロリーメイト」発売

1984

佐賀研究所（現佐賀栄養製品研究所）設立
ニュートラシューティカルズ関連事業の研究拠点

1987

韓国の東亜食品（現東亜大塚）に資本参加
以後アジア各国に事業会社設立

1988

「ファイブミニ」発売

1989

米国のファーマバイト社
（現ファーマバイト LLC）に資本参加

1990

天津研究所（現天津スキンケア研究所）設立

1993

「ネイチャーメイド」日本発売

2000

天津栄養製品研究所 設立

2003

「アミノバリュー」発売

2005

「賢者の食卓」発売
「インナーシグナル」発売

2006

「ソイジョイ」発売

2008

「ウル・オス」発売

2009

フランス栄養製品会社の大手
ニュートリション エ サンテ社 (N&S社) に資本参加

2010

「ジェルブレ」発売

2013

「ボカリスエット イオンウォーター」発売

2014

「エクエル」発売

2017

「ボディメンテ」発売
プラントベース（植物由来）食品の北米企業
デイヤフーズ社に資本参加

2018

「賢者の快眠 睡眠リズムサポート」発売

2021

「トコエル」発売

2022

「サクラエ」発売

Appendix

参考情報

P27

大塚グループ環境方針



大塚グループは、人々の健康と地球の健康に貢献する、なくてはならない企業を目指して、創造性を持って課題に挑戦し続けることにより、人と地球が将来にわたって共存できる社会を実現します。

【環境活動指針】

- カーボンニュートラル
事業活動全体でカーボンニュートラルに取り組み、脱炭素社会の実現を目指します。
- サーキュラーエコノミー
化石資源由来原料からの脱却とゼロ・ウェイストに取り組み、サーキュラーエコノミー型社会の実現を目指します。
- ウォーターニュートラル
水を大切に使いキレイに還す取り組みを通して、水資源の持続可能な利用を目指します。
- 環境コンプライアンス
環境マネジメント体制を継続的に改善し、コンプライアンスの実効性を高め、リスクを低減します。
- コミュニケーション
環境に関連する情報を透明性高く積極的に開示し、ステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

P27

CO₂フリー電力*およびグリーン電力証書の導入

大塚グループはCO₂フリー電力などの再生可能エネルギーを導入し、生産拠点への拡大を推進しています。大塚製薬 国内全工場でCO₂フリー電力を採用、本社・オフィスを含むすべての営業拠点の電力において、「グリーン電力証書」を購入し、グリーン電力へ切り替えました。今後も再生可能エネルギーの導入や燃料転換などによるエネルギー利用の最適化を進め、グループ会社間の協働による相乗効果を発揮し、脱炭素社会の実現、ひいてはサステナブルな社会の実現への貢献を目指して取り組んでいきます。
* 実質CO₂フリー電力を含む

P27

大塚グループプラスチックステートメント



【基本的な考え方】

大塚グループが使用しているプラスチック製容器包装等のほとんどを飲料用PETボトルが占めていることから、PETボトルの資源循環を推進することが化石燃料

への依存を軽減し、地球環境の保全に貢献すると考えております。大塚グループはその原料にリサイクル原料や植物由来原料を使用することによって、グローバルにおける持続可能なPET原料の割合を2030年までに100%、2050年までに化石資源由来原料の使用をゼロにすることを目指します。また、PETボトルの資源循環を推進するためには、使用済PETボトルを再びPETボトルの原料として利用する必要があります。大塚グループでは、グローバルで使用済PETボトルを適正に回収し再利用する取り組みを、多様なステークホルダーと協働して推進していきます。

【プラスチックビジョン2050】

「消費者商品の全製品を対象に持続可能な社会に対応した容器包装の使用を目指します。」
・化石資源由来プラスチックゼロ
・植物由来原料・リサイクル原料・生分解性原料の使用促進
・リユース容器の使用促進

【2030年目標】

- ・PETボトルにおけるリサイクル原料と植物由来原料の使用を促進し、2030年までにリサイクル原料および植物由来原料の使用割合をグローバルで100%にします。
 - ・飲料容器として新たな代替素材（紙製容器など）の採用と、既存の缶容器の使用増加を目指します。
 - ・飲料容器の再利用モデルとして、循環型販売モデルによるリユース容器の採用や既存のパウダータイプ製品等のマイボトル・スクイズボトルへの活用を継続・促進していきます。
- 飲料容器のリサイクル化と並行して、代替素材容器への活用を推進します。 (2022年2月改定)

P29

大塚製薬健康宣言



Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

この企業理念の実現には、社員一人ひとりの心身の健康が不可欠です。大塚製薬は身体全体を見渡すことができる知識を備えた会社として、社員およびその家族が健康であるだけでなく、その先にある、元気でいきいきと充実した生活を送ることを目指し、健康の維持・増進のための職場環境の整備に努めることを宣言します。

大塚製薬株式会社 代表取締役社長 井上 眞

P29

大塚製薬「健康経営優良法人～ホワイト500～」に認定

“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”の企業理念のもと、世界の人々の健康に貢献する革新的な製品の創出により、グローバル価値創造企業を目指しています。そのためには、社員一人ひとりが心身ともに健康で、いきいきと働ける職場環境づくりが大切だと考え、健康宣言を行い、社員の健康に関する様々な取り組みを推進しています。具体的な取り組みとして、自らの知見を活かした社員とその家族を対象とした健康セミナーのオンライン開催や、リモートワーク環境下における運動機会の提供などを通じて社員の健康維持・増進をサポートするほか、人間ドック受診助成など社員の健康管理を促進、長時間労働の是正等、働きやすい環境づくりを行っています。

P29

大塚製薬 スポーツ庁「スポーツエールカンパニー」6年連続認定

大塚製薬は、スポーツを通じて社員の健康増進に積極的に取り組む企業として、スポーツ庁から「スポーツエールカンパニー2023」に認定されました。当社は2017年の当制度創設以来6年連続で認定されており、昨年に引き続き「ブロンズ認定」となりました。これまで当社は職場や自宅での運動機会の提供を行ってきましたが、2020年度以降はオフィス内リフレッシュ体操をリモートワーク中にも実施できるようオンラインで公開、スマートフォン向けのアプリを用いたウォークラリーの開催など、様々な運動機会の提供を続けています。2022年度には、海外グループ会社のバーチャルラン企画「ボカリスエットラン」に当社社員も参加し、グループ間で連携し社員や社員の家族の運動継続と健康維持・増進をサポートしました。これら取り組みが評価され、「スポーツエールカンパニー2023」に認定されました。

P29

女性のエンパワーメント原則（WEPs）への署名



大塚ホールディングスは、2017年に女性の活躍推進に自主的に取り組む企業の行動原則である女性のエンパワーメント原則（WEPs: Women's Empowerment Principles）に署名しました。

【女性のエンパワーメント原則（WEPs）】

UNGC 事務局と UN Women が、2010 年に共同で作成した「女性のエンパワーメントに自主的に取り組む企業の行動原則」。WEPs への署名により、企業は女性が社会的にその力を発揮できるような労働環境・社会環境を整備することへの強い意志を国内外に示すことができる。

WEPs は以下の7原則で構成される。

1. トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
2. 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
3. 健康、安全、暴力の撤廃
4. 教育と研修
5. 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
6. 地域におけるリーダーシップと参画
7. 透明性、成果の測定、報告

P30

国連が提唱する「グローバル・コンパクト」への署名



世界に広がる大塚グループの全社員が遵守すべき規程として「大塚グループ・グローバル行動規程」等を制定し、事業運営に取り組んでいます。サステナブルな社会の実現に向けた企業の取り組みへの国際社会からの要請が増大していくなか、当社グループは2016年、UNGCの10の原則に賛同し、署名しました。

原則 1: 人権擁護の支持と尊重

原則 2: 人権侵害への非加担

原則 3: 結社の自由と団体交渉権の承認

原則 4: 強制労働の排除

原則 5: 児童労働の実効的な廃止

原則 6: 雇用と職業の差別撤廃

原則 7: 環境問題の予防的アプローチ

原則 8: 環境に対する責任のイニシアチブ

原則 9: 環境にやさしい技術の開発と普及

原則 10: 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

Other

消費者志向自主宣言



【理念】

大塚グループは、「Otsuka-people creating new products for better health worldwide—世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する」という企業理念のもと革新的で創造性に富んだ製品・サービスを通じて、世界の人々のより豊かで健康な暮らしに貢献し、お客さまや社会から信頼され続ける企業を目指します。

【取り組み方針】

1. 経営トップのコミットメント

私たちは「患者さんや生活者の皆さまが真に求めていることは何か」という本質を考え、日々事業活動を行っています。「実証と創造性」という大塚の企業文化を受け継ぎ、治療から健康維持・増進までを担うトータルヘルスケアカンパニーとして、世界の人々の豊かで健康な暮らしに貢献する“なくてはならない企業”を目指して、これからも挑戦を続けてまいります。

2. コーポレートガバナンス

透明性・公平性を保ちつつ、迅速な意思決定を行うとともに、顧客、取引先、従業員、地域社会、株主等すべてのステークホルダーとの対話により信頼に応え社会的責任を果たしていくことを基本方針としております。

3. 社員の意識の醸成

私たちは多様な人材の活躍を原動力として事業を進めてまいりました。顧客価値、真のニーズそして社会課題を把握し、新しいカテゴリーを創造し続けるために、あらゆる機会を利用しながら社員の意識醸成に努めます。

4. お客さまへの情報提供の充実とお客さまの声を活かす仕組みづくり

長年にわたる「健康」に関する研究、開発、事業活動において得た知見やノウハウを活かし、健康への気づきの促進や理解向上を目的として、セミナー、工場見学、ホームページなどを通じた相互コミュニケーション活動を行います。お問い合わせやご相談、ご意見に対応する適切な窓口体制を整え、お客さまから寄せられた声を製品の開発・改善に活かしてまいります。

5. 社内関連部署との連携による問題発生時の速やかな対応
生命関連企業の責務として、常に患者さんや生活者の皆さまのことを第一に考え、製品の品質安全性を最優先にした事業活動に取り組んでまいります。製品やサービスに問題が発生した場合は、速やかに関連部署の連携のもと情報収集と調査を行い、適切な対応とよりよい製品・サービスの提供に努めます。

(2018年10月)

が、今回、「オロナミンCのラベルを剥がしやすくしてほしい」との声が多く寄せられたことから実現化。飲料ドリンクびんでは日本初のラベルレス製品です。

大塚ホールディングス

【参画している主なイニシアチブ】



- 国連グローバル・コンパクトへの署名
- 女性のエンパワーメント原則（WEPs）への署名
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への賛同
- RE100に加盟
- 気候変動イニシアティブ（Japan Climate Initiative）への賛同

【コミットメント】

- 健康宣言
- 消費者志向自主宣言
- 大塚グループ 調達方針
- パートナースhip構築宣言
- 大塚グループ知的財産ステートメント
- 大塚グループ環境ビジョン
- 大塚グループ 環境方針
- 大塚グループ プラスチックステートメント
- 大塚グループ・グローバル腐敗防止規程
- 大塚グループ・グローバル利益相反ポリシー
- 大塚グループ・グローバルプライバシーポリシー
- 大塚グループ・グローバル不正防止ポリシー
- 大塚グループ・グローバルスピークアップポリシー
- 透明性ガイドライン

大塚グループ企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

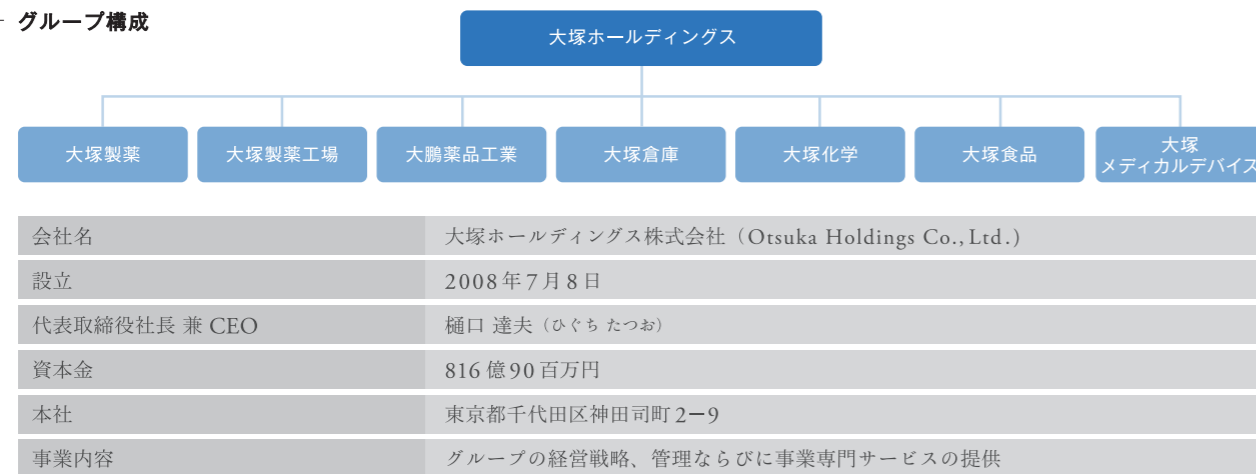
概要

大塚グループは、1921年に創業し、世界の人々の健康への貢献を目的に、疾病の診断から治療までを担う「医療関連事業」と日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ*1 関連事業」の2本柱で事業を展開しています。歴代の経営者が育んできた「流汗悟道」「実証」「創造性」という大塚の伝統を受け継ぎ、現在では世界32カ国・地域、196社で47,000人*2の社員が、大塚らしいユニークな製品・サービスを提供し続けるため活動を行っています。

*1. ニュートラシューティカルズ: Nutraceuticals = nutrition (栄養) + pharmaceuticals (医薬品)

*2. 2022年12月末現在。大塚ホールディングスおよびその子会社、関連会社

グループ構成

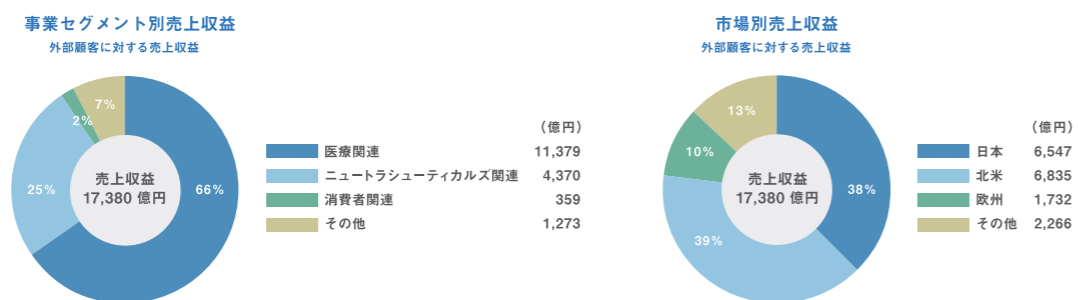


沿革

- 1921年：徳島県鳴門市に化学原料メーカーとして創業
- 1946年：輸液(点滴注射液)事業を開始し、医薬品事業に参入
- 1965年：消費者向けの健康飲料(オロナミンCドリンク)を発売、ニュートラシューティカルズ関連事業に参入
- 1971年：大塚製薬が大塚グループとして初の自社医薬品研究室を設立
- 1973年：世界の人々の健康に貢献することを目的に初の海外進出
- 2008年：グループの純粋持株会社として大塚ホールディングスを設立
- 2010年：東京証券取引所*市場第一部に上場
- 2021年：創業100周年

*2022年4月より同取引所プライム市場に移行

財務内容 (2022年度)



コーポレートシンボル

コーポレートシンボルは大塚グループの企業理念をシンボリックに表したもので、大塚の「O」をモチーフにしています。「大きなO」は人々の頭上に広がる青空のイメージです。『開放感』、『自由』、『知性』、『未来』を表す Otsuka BLUE のグラデーションで深みと広がりを持たせています。「小さなO」はその根源となる大塚グループのエネルギーです。大きさの異なる二つの形がバランスを保ち、ソフトで親しみのあるOtsukaの文字との組み合わせで「人間の健康で幸せな空間と、それを支える大塚グループのエネルギッシュな活動」を表現しています。

